犬山城 華頭窓

犬山城の天守は要塞として建てられましたが、その創造者は美学に多くの注意を払いました。この鐘型の窓枠（華頭窓）は装飾的な特徴であり、機能する窓ではありません。フレームのSのような曲線は、中国の禅建築の特徴であり、寺院のために採用されたスタイルです。元の漢字では、火灯窓ですが、火の存在を暗示するのは運が悪いと考えられていたため、文字は「華頭窓」を使います。城の南側と北側にそれぞれ2つの華頭窓があります。